

万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行
浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾4 6 1-1
電話 0267-67-2460

2025(令和8)年

仏暦2569年

1月号

(第172号)

実践運動 総合テーマ『そとつながる ホッがつたわる～結ぶ絆から、広がるご縁へ～』



住職 法話

菩薩と礼したてまつる



正信念仏偈に学ぶ
本師曇鸞梁天子
常向鸞処菩薩礼
本師曇鸞は、梁の天子、
つねに鸞の処に向かひて
菩薩と礼したてまつる。

「現代語訳」
曇鸞大師は、梁の武帝が常
に菩薩と仰がれた方であ
る。

ここから、七高僧三人目の
中国の曇鸞大師になります。

本師曇鸞大師をば
梁の天子蕭王は

おはせしかたにつねにむき
鸞菩薩とぞ礼しける

(梁の武帝は、曇鸞大師を
深く敬い、常にお住まいにな
っている方に向かつて、鸞菩
薩と礼拝されていた。)

と親鸞さまは『高僧和讃』に詠
まれています。蕭王は、南北
朝時代中国の梁という国の
初代皇帝です。親鸞さまは曇
鸞大師の和讃を三十四首と特
に多く詠まれていました。また

「親鸞」という名の由来も天
親菩薩と曇鸞大師から一字を
取られるほど重要視されて
います。
親鸞さまの『尊号真像銘文』
にも、

「梁国の天子」というの
は、梁の王ということであ
り、蕭王のことである。
「恒 向 北 礼」と
いうのは、梁の王がいつ
も、曇鸞大師がはるか北の
方においでになるのを、菩
薩と仰いで礼拝しておられ
たというのである。
と示されます。

そして、それに続けて、
「註解往生論」というの
は、天親菩薩の『浄土論』
を詳しく解釈されて、『往
生論註』という註釈書
をお作りになったというこ
とである。

と曇鸞大師の『往生論註』
という著をあげています。お
釈迦さまの説かれた『無量
寿経』に基づいて註釈され
たのが天親菩薩の『浄土
論』でしたが、曇鸞大師はそ
の『浄土論』を註釈され

『往生論註』を著されま
す。

お釈迦さまのインドから中
国へと様々な形を経て仏教が
伝えられ、当時の中国は仏教
が盛んな時代でした。その中
でも、インドの「龍樹」「天親」
といった浄土の教えを学び、
流れを絶やすことなく中国へ
つなげてくださった曇鸞大師
を親鸞さまは重要な存在とさ
れていたのでしょうか。

そんな曇鸞大師でありまし
たが、最初から浄土の教えに
帰依していたわけではなかつ
たようです。「仙経」といわ
れる長生不老という長生き
のための教えを学ばれていま
したが、浄土の教えに出会い、
そのお経を焼き捨てられたと
いうお話です。それは、次
の句に出てきます。

親鸞さまも、学ばれていた
比叡の山を下りられ法然さま
の浄土の教えに出遇われまし
た。そんな見方でも、親鸞さ
まは身近に感じられたので
ないでしょうか。



仏教語豆事典

悪口

対人関係を壊すもと

「妄語をいい、綺語を好み、悪口して他を罵り、両舌して他の親好を破することを、口の四悪業という」と、『十善法語』という仏書に書かれています。

妄語は嘘をつくこと。綺語は真実にそむいて巧みに飾りたてた言葉。悪口は人をあしざまにいうこと。両舌は両方の人に違ったことをいい、両者を離間して争わせることで、二枚舌のことです。

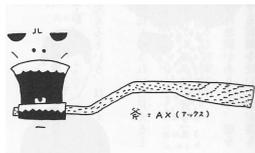
この四つは、口でしゃべる悪の行為だといえますから、慎まなければなりませんね。悪口は一般に「ワルグチ」とか「アッコウ」と読みますが、仏教では「アック」と読みます。

悪心をもって人に悪言を加え、相手を悩ませ、傷つけることです。

『正法念処経』は「人間は生まれながらにして口の中に大きな斧をもっている。その斧で他人を切るならば、それは悪口となる」と説きます。恐ろしいことですね。

いずれにせよ、人に不快感を与えるような言葉は慎み、対人関係を大切にしたいものですね。

あなたの一言が、相手の人生を変えさせることになるかもしれませんよ。



阿号

「元の木阿弥」の由来

能の観阿弥・世阿弥、水墨画・連歌の能阿弥、書院造の相阿弥、作庭の善阿弥、立花の立阿弥、美術鑑定の千阿弥など、みんな名に「阿弥」がついています。

名前の下に「阿弥陀仏」略して「阿弥」「阿」をつけるのを、「阿弥陀仏号」略して阿号といえます。

これは、法然聖人から念仏の教えを聞いて感銘した俊乗房重源が、みずから南無阿弥陀仏を名としたところから、浄土宗や時宗などでよくつけられ、中世以降は、仏工・画工・能役者など、芸能関係者が好んで用いました。

昔、筒井順昭が病死したとき、嗣子の順慶がまだ幼かったので、敵から攻められるのをおそれて、遺言により、声が順昭とよく似ていた南都の木阿弥を寝所に寝かせ、順昭が病気で寝ているように見せかけました。そして順慶が長ずるに及んで、順昭の喪を発表したと、『天正軍記』は紹介しています。

順昭の代役を務めた木阿弥は、もとの市人に帰っていききました。

今では諺になっている「元の木阿弥」の一席でした。



「くらしの仏教語豆事典」文・辻本敬順 絵・寄藤文平／本願寺出版社刊り

編集後記

新年です。本年も宜しくお願
い致します。◆寺報の編集で、
仏教用語など言葉の意味を調
べていると、AIに教わるこ
とが増えてきています。これ
までの辞書とは少し違い、項
目にまとめて説明してくれる
のでわかりやすいです。まだ
賛否あるものですが、頼りに
なるものは活用していきま
す。

年忌法要表

1周忌	2025(令和 7)年	23回忌	2004(平成16)年
3回忌	2024(令和 6)年	25回忌	2002(平成14)年
7回忌	2020(令和 2)年	27回忌	2000(平成12)年
13回忌	2014(平成26)年	33回忌	1994(平成 6)年
17回忌	2010(平成22)年	50回忌	1977(昭和52)年